

生涯学べ

24 玉川の丘は生涯にわたる学習の場。通信教育部での学びが今に生かされています。

学び続けることの大切さを伝えたい

高原富紀子

Fukiko Takahara

玉川大学キュレーターズ事務局長

東京都出身。1996年通信教育部で学芸員資格取得。2005年から事務局長をつとめる



本

当に良いものを見極める目を養うためには、長く勉強し続けなければならぬ。それは玉川の先生方に教えられ、今も自分の人生における核となっています。

通大へ入学したのは43歳のとき。結婚後、静岡で10年間暮らし、子育てしながら、将来は通信教育で学びたいと思っていました。東京への転居を機に美術関連の企画会社に再就職。古美術や職人芸にふれる機会が多くなり、勤めて4年目、学芸員資格を取ろうと1995年に入学したので。翌年には

資格取得でき、すぐ玉川大学キュレーターズの仲間に入れてもらいました。当時は義父母と子ども2人の6人家族で、仕事と家庭の両立に追われる日々。それでも細々と勉強を続けたことが役立ちました。地方の美術品を探したり、陶芸や彫刻などの作家を訪ねて作品を紹介する仕事なので、日本美術や文化史の知識が生かされる。玉川の先生には「仕事とは別の世界を持ちなさい」と、ビジネスと離れた場で芸術の真価を問う大切さを教えられたため、仕事だけに流されなかった。50代半ばで親の介護を抱えたときも、自分にとって大事なことを優先しようと思いい、悔いなく家庭に入りました。

その頃、玉川大学キュレーターズの事務局長を引き受けたのも自分の転換期になったような気がします。創設10年を経て、会長とともに会の運営を組織化し、総会と研究・活動発表会のほか、学習会などを企画し、会報『たまゆに』を発行。年会費はきっちり予算を立てて使い、役員会も開催するなど、活動の基盤を固めました。

キュレーターズの活動を続けるなかで地域の文化にも目が向き、埼玉県立博物館の評議会委員になりました。博物館の運営について専門家や有識者と話す場があり、民俗学の学芸員と知り

“ 地域の伝統芸能を伝えていくことで若い人たちの成長につながればと思う ”

合ったのです。その年、彩の国さいたま芸術劇場で開かれた民俗芸能公演がとて面白かったので、私も民俗学の勉強を始めました。すると、学芸員の方から「今度、学生と一緒に江戸里神楽の公演をやるよ」と誘われ、初めて神楽の舞台を観ることになったのです。江戸里神楽とは、江戸（東京）とそれを囲む神奈川、千葉、埼玉に伝わり、神話の世界を無言劇で演ずる伝統芸能です。本来は神様に奉納する神事として神社で演じられるものを、年に1回劇場で公演し、一般の方々に楽しく鑑賞していただく趣旨で始まりました。

2011

キュレーターズの分科会のひとつ、ブディスト・アート研究会で毎月開いている読書会。民藝運動を起こした柳宗悦など、日本美術を学んでいる



2012

里神楽公演の協賛依頼をするため、学生たちと株式会社しまむらへ。取締役相談役・藤原秀次郎氏は学生たちの訪問を喜び、応援して下さった



玉川大学キュレーターズ 20年の歩み

今年創立20周年を迎えた玉川大学キュレーターズ。学芸員資格者が、いかに資格を生かし、学芸を楽しみながら学び続けるかを探究することを目的に、1993年に「玉信キュレーターズ」設立、05年に今の名称に変更された。多くの会員は学芸員資格を仕事やボランティア、関心分野の研究に生かす一方、常に継続学習の必要性を感じ、研究・活動発表会や学習会などの活動を通して切磋琢磨し、情報交換しながら信頼できる仲間との交流を大切にしてきた。現在、会員約90名。

入会問い合わせ tama_uni@yahoo.co.jp



5月13日、小原芳明学長の誕生日に大学を訪ね、今後も「生涯学べ」を目指し、質の高い学習と会員交流を継続することを報告した

2011

第5回江戸里神楽公演「因幡の白兔」。埼玉の農村地帯に伝わる江戸里神楽は、神話の世界を神楽囃子と神楽舞で表現する庶民的な民俗芸能

「第7回 楽しくて、わかりやすい江戸里神楽公演」

2013年8月23日午後5時30分～
彩の国さいたま芸術劇場小ホール
全席指定1000円
〈申し込み先〉yfe78576@nifty.com

